

〔勸修寺光豐公文案三〕女院御所生鮭一折御進上候則令披露候處に奇特と思召候由相心得可申之旨被仰出候隨而私へも生鮭一尺送給候毎度御懇意之段本望之至存候猶以面可申述候恐々謹言

十月○慶長五年五日

板倉伊賀守殿

〔駿府政事錄〕慶長十六年九月廿六日大久保相摸守忠隣獻生鮭魚并乾鮭魚

〔武家調味故實〕一くわい人の間にいませ給べき物○略申さけ

〔渡邊幸庵對話〕一から鮭を祝義に用る事都鄙共に同じ是を考に其謂ある歟大智度論に曰魚母子を念口して刀を経れ共不壞三千の子申盡愛子此心を以て見れば子孫不斷絶相續の心を以鮭を祝義に用る歟

一千鮭煤を取には干鮭を埋候得ば煤とれる也扱切申にはひやかし不申候ても庖丁の刃に油をぬり候て切候得ば能切れる也

〔雲萍雜志三〕世にありし人零落したる人のもとに行きてともにつれ立ちて市にゆきて鹽魚を買ふ時世にある人は鹽鰈を買はんといふ零落の人は鹽鱈を買はんとたがひにいひ争ひしが終に零落の人云ひ勝れて鹽鱈を買ひて歸りぬさて道すがらのほどはなしに世にある人云ひけるはそのもと何とて鰈のうまきをして、鱈のうまからぬを買へるかといへば零落の人わらひて今日はそのもとより我等への饗應にせらるゝなれば鱈にしかず鰈は御ものごとく常に美味を食し給へる人のたまゝ食ひたまふものなむ我は常にうまきを食はざれば鱈の味にしかずといへり

〔倭名類聚抄十九〕鮓

爾雅集注云鮓胡本反上聲之重字亦作鱠和名阿米似鱈者也楊氏漢語抄云水鮓一云江鮓今

本未詳